

近畿地方 DMAT ブロック訓練 に参加しました

令和5年11月11日(土)、豪雨により武庫川と新湊川が氾濫し水害が阪神・神戸圏域に発生している中、山崎断層帯を震源とする最大震度7の地震が発生したという想定で訓練が行われ、当院から17名が参加しました。この訓練では水害により当院が被災し病院避難を余儀なくされるという想定も設定されていたため、院内にも災害対策本部を立てて対応に当たりました。



院内対策本部の様子

院内の災害対策本部要員のほか、DMAT1隊と日赤災害医療コーディネートチーム2隊も派遣し、DMAT隊とコーディネートチーム1隊は兵庫県庁で本部活動を、残るコーディネートチーム1隊は神戸市役所内に設置された神戸医療圏活動拠点本部で本部活動に従事しました。

兵庫県 DMAT 調整本部

【業務調整員】 今回の活動は兵庫県庁での本部活動でした。現場で起こっている様々な需要に対して、先手先手で対応することが求められましたが、リーダーはじめチームである程度の対応はできたかなと思いました。

起こった事象、起こりうるリスクに対して対応することは、災害時に限らず平時の業務でも同じ事だと感じています。今回の経験で感じたことを業務にも生かしながら、有事にも対応できる医療人を目指したいと改めて思いました。



神戸医療圏活動拠点本部

【業務調整員】 今回の訓練では、日赤救護班、DMAT チームや行政など、様々な立場の人とともに本部活動を行いました。他機関と連携し、また日赤リエゾンとしての役割を果たすためには、全体や現場の状況を把握し、的確な情報を上位本部や周囲に伝えることが重要だと思いました。

しかし、情報伝達が重要と思っても、本部内の業務や活動する人が増えるほどうまくいかない難しさを実感しました。今回の訓練の経験を実際の現場でも活かせるよう、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。